

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年																	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ~1日	8月 ~8日	8月 ~15日	8月 ~22日	8月 ~29日	9月 ~5日	9月 ~12日	9月 ~19日	9月 ~26日	10月 ~3日	10月 ~10日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	169	115	122	34	18	11	14	8	6	12	14	13	12	7
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	55	64	63	16	9	2	10	8	7	12	12	11	28 (31)	18
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	2	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	5	8	10	2	11	1	5	4	0	3	3	3	2 (3)	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	39	25	17	0	4	1	5	5	9	4	3	4	6	8
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	31	13	14	5	5	2	5	2	2	2	5	1	4	4
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	4	4	0	1	0	0	2	1	4	1	0	0	0	1
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

\* ( )は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。  
\* その他の1件はアエロモナスでした。

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第40週(10月4~10月10日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	4	結核	4					1	2	1
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1					1		
四類	10	日本紅斑熱	8	1		4			3	
		レジオネラ症	2	1			1			
五類	10	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2			1			1	
		梅毒	8		1	1		6		
新型コロナウイルス感染症	95	新型コロナウイルス感染症	95	13	6	1	1	60	3	11

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市  
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町  
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第40週に60件の報告があり、減少傾向が続いています。感染の再拡大を防止するため、引き続き、手洗いや換気、マスク着用などの基本的な感染防止対策を徹底しましょう。

2 ヘルパンギーナ

定点当たり1.63人の報告がありました。手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

3 手足口病

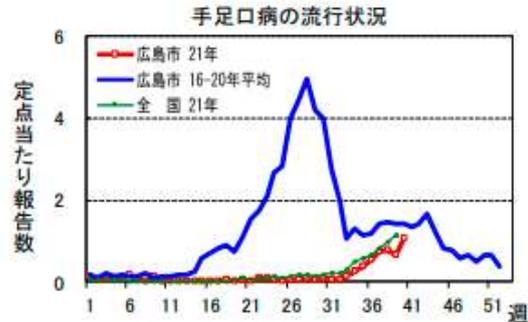
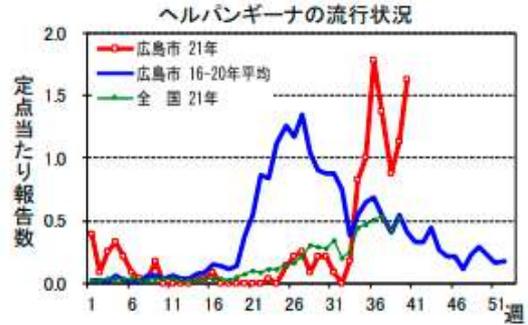
定点当たり1.04人の報告があり、増加傾向です。手足口病は、口の中の粘膜や手足に水疱性の発しんが出るウイルス性の感染症です。接触感染や飛沫感染などで感染し、乳幼児を中心に流行します。手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

4 梅毒

6件の報告があり、今年の累計は70件(昨年同時期47件)と増加しています。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがありますので、早期発見・早期治療が大切です。

【参考】保健センターの無料・匿名の梅毒検査

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2986.html>



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.19		小児科	流行性耳下腺炎	-	0.21	
小児科	咽頭結膜熱	1	0.04	0.24		小児科	RSウイルス感染症	1	0.04	1.28
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	0.21	1.65			急性出血性結膜炎	-	-	0.03
	感染性胃腸炎	48	2.00	3.54		眼科	流行性角結膜炎	5	0.63	0.63
	水痘	1	0.04	0.21		眼科	細菌性髄膜炎	1	0.14	-
	手足口病	25	1.04	1.41			無菌性髄膜炎	-	-	0.03
	伝染性紅斑	1	0.04	0.17			基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-
	突発性発しん	6	0.25	0.29		基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-
	ヘルパンギーナ	39	1.63	0.40			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	66	70歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	16	50歳代・O血清群不明
4	レジオネラ症	1	32	60歳代
5	梅毒	6	70	30歳代・4人、40歳代・1人、50歳代・1人

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ	発熱(39.7℃) 口内炎	1	2021/08/14	咽頭拭い液	コサッキーウイルスA4型
ヘルパンギーナ	発熱(38.0℃) 口内炎	2	2021/08/23	咽頭拭い液	コサッキーウイルスA4型
流行性角結膜炎	眼脂 充血	25	2021/04/23	結膜擦過物	アデノウイルス53型
流行性角結膜炎	結膜炎 充血 眼脂	29	2021/04/29	結膜擦過物	アデノウイルス85型

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載